

すみよし蔵ものがたり 編集後記

2010年10月に設立した住吉文化事業実行委員会において、2010年度DVD「住吉の蔵」を製作した。DVDの完成までを共にして、住吉区にいまなお多くの蔵が現存していることを確認した。同時に、建築に携わる者の職能として、蔵に光をあてて発信することは重要であると考え、建築士、デザイナーの6人の仲間が集まってもらい、会を立ち上げた。蔵を建築の立場から捉え調査をしたいと伝えた。メンバーと帝塚山付近の蔵を見て歩き、DVD「住吉の蔵」を見た。調査に先立ち都市計画分野の元大阪市立大学大学院教授の赤崎先生に「街の見方・街の歩き方」について講義をお願いした。現在、会の顧問も引受けてもらっている。会の名前は「住吉蔵部」と決めた。

2011年5月に全員で帝塚山から遠里小野地区まで熊野街道沿いを調査、7月は我孫子駅周辺の旧村を、そして長居地区から粉浜まで住吉街道を歩いた。蔵の内部見学もした。以後、地区担当を決めて調査を続行した。蔵の全数調査は9月までかかった。住吉区内に100戸を超える蔵があることを確認した。8月に蔵ギャラリーCLASSIC、11月に伊藤家の蔵の実測調査をした。実測と実測の図面化、模型作りは建築専攻の学生や大阪府建築士会の有志の協力を得た。「住吉の蔵展」を10月に「長屋ギャラリーふう」、2012年1月に「住吉区民センター区民ギャラリー」で中間報告を兼ねて開催した。2011年11月と2012年1月に「瓦職人さんの話を聞く会」を開催した。現在、蔵所有者の「聞き取り調査」も始めている。こうした蔵の調査・分析・展示を通して、「蔵の活用の提案」も視野に入れた、保全のための協力も考えている。

蔵が見せる本瓦葺きの屋根や白壁の佇まいには歴史を感じられ、まちに風格のある景観を醸し出している。今、住吉に継承されている100戸を超える蔵の存在自体が「貴重な財産」になっている。そうした「住吉の蔵の魅力」を地域内外に発信することも重要なテーマと考えている。これからも蔵調査を継続し、調査資料を蓄え次世代に残せるものにしたい。そして分野を超えたさまざまな人たちとの関わりのなかで、住吉のまちづくりの輪が広がり、そのことが地域活性化につながることを切に願っている。

2012年啓蟄の日
住吉文化事業実行委員会 委員長 住吉蔵部代表 竹山通明



